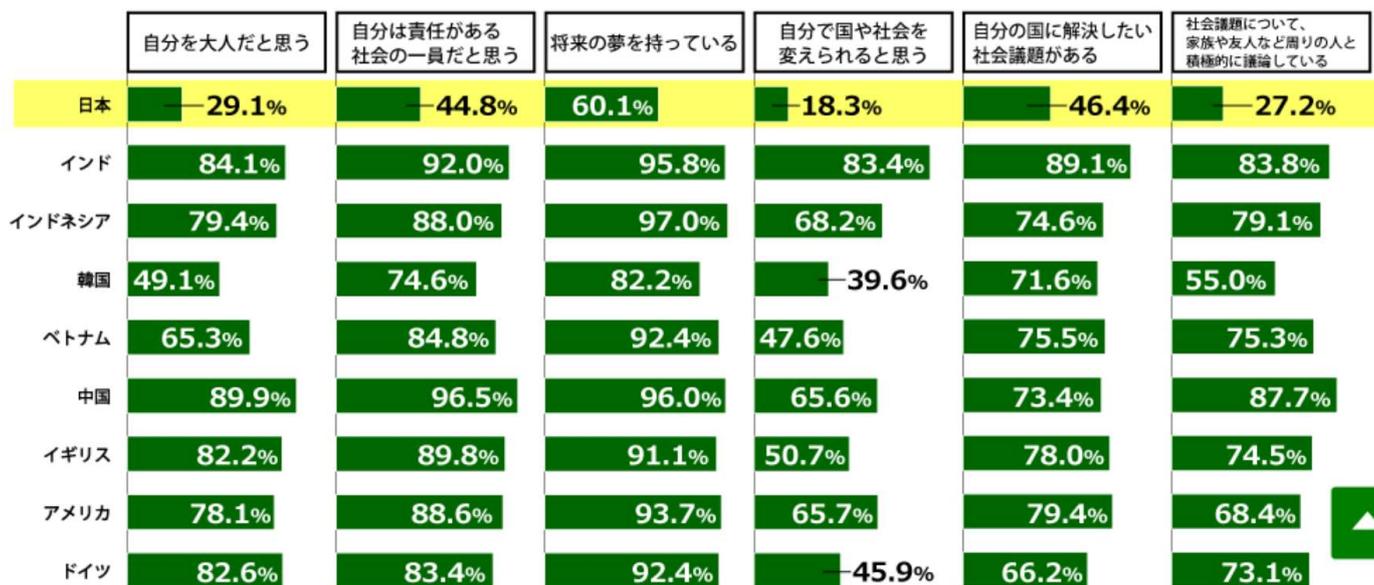


18歳意識調査 夢や希望 大人が奪った

毎日新聞 2021.6.6「時代の風」より 長谷川 真理子（総合研究大学院大学長）



日本財団が行っている「18歳意識調査」というものがある。18歳の若者を対象に、昨今のいろいろな社会課題に関する意見を調査している。2019年には、「国や社会に対する意識」に関して、日本を含む9カ国で調査が行われた。インド、インドネシア、ベトナム、中国、韓国、英国、米国、ドイツと日本で、17歳から19歳の各国1000人ずつを対象とした。

19年といえば、今から2年前。新型コロナウイルス感染症の蔓延で世界中が非常事態になる前のことだ。もしかすると、若者たちの意識もそれに応じて変化したかもしれないが、19年時点での世界の若者たちの意識を見てみよう。この結果に私はがくぜんとし、日本の将来を真剣に憂える思いを抱いた。

〔抜粋〕

- ・「自分を大人だと思うか」……日本はそれらと比べても特別に低い。
- ・「自分は責任がある社会の一員だと思うか」……他国に比べれば低いのが韓国で、74.6%なのだが、日本はそれにもほど遠い。
- ・「将来の夢を持っているか」……4割は夢がない。いつも数値が低い韓国でさえ82.2%である。
- ・「自分で国や社会を変えられると思うか」……たったの18.3%しかいない。ほとんどあきらめの状態だ。
- ・「自分の国に解決したい社会課題があるか」……問題意識を持つという点でも、日本はひどく低い。
- ・「社会の課題について家族や友人と積極的に議論しているか」……日本の若者が、いかに何も議論していないかがわかる。
- ・「自分の国は将来良くなると思うか」……途上国は概して高い。先進国では、米国が30.2%、英国が25.3%、ドイツが21.1%である。韓国も22%だ。先進国は、どこでも閉塞感に見舞われているのだろう。現在の途上国は、確かに以前よりも今の方が良くなっているという実感が持てる。その延長で、将来も良くなるという自信が出てくるのだろうが、先進国では、概してそうはいかない。それにしても、日本の若者で将来が良くなると思う割合がたった9.6%なのは低過ぎないか。

逆に「悪くなる」と思う若者が3分の1ほどいるのは先進国である。それも、日本は37.9%なので、それらを上回る。「わからない」という回答が多いのも先進国だ。これも、現状の閉塞感を表しているに違いない。中国など、「わからない」と答える若者はたった2.6%しかいないのだ。

今の若者たちは、自分が社会を変える気概に乏しく、問題をみんなで議論することもなく、将来に夢も希望も持っていない。こんな状態を作り出したのは誰か？ それは今の大人たちである。

自分の国は将来良くなると思うか

